

「ねっ”虫”体験！杉並で世界の昆虫」を開催

15日、杉並区立郷土博物館(杉並区大宮 1-20-8)では、世界各地の170種あまりの昆虫標本を紹介する昆虫展が始まり、多くの子どもたちが巨大なカブトムシや輝く蝶に歓声を上げていました。この昆虫展は9月3日まで開催されます。

夏休みを目前に始まった「ねっ”虫”体験！杉並で世界の昆虫」は、区内在住の須田真一氏(中央大学保全生態学研究室)の監修によって世界各地の170余種の昆虫が展示されています。様々な姿や生態の昆虫を通して身近な生き物や自然環境に興味をもってもらおうと、夏休み期間に合わせて昆虫展を企画しました。

展示は、大きい昆虫、小さい昆虫、美しい昆虫、奇妙な形の昆虫などといった、誰でも分かりやすく、そして興味をそそるジャンルに分けて展示されています。

大きい昆虫では、体長が15cmもある「ヘラクレスオオカブト」、前翅長(ゼンシチョウ:前羽の付け根から先端までの長さ)が14cmもある蛾「ナンベイオオヤガ」や「ヨナグニサン」。小さいものでは体長が1cmに満たない「チビクワガタ」「マメクワガタ」。また、宝石や貴金属のように照り輝く「ヤマトタマムシ」「アウラタキンイロクワガタ」や美しい羽を広げたアゲハ蝶の類などは見とれてしまいます。落ち葉を詰め込んだ標本箱に納められた「コノハチョウ」は、容易に見分けが付きません。

また、都市化の進展で田畑や雑木林なども減った杉並ですが、まだまだ沢山の昆虫が逞しく生息しています。最近の調査では約1,140種もの昆虫が確認されていて、それらの中から、杉並のムシたちとして、「ムラサキシジミ」「ジャコウアゲハ」「コムラサキ」などの蝶やトンボなど50種が展示されています。

初日の7月15日、郷土博物館には小学生や親子連れが来場し、色鮮やかな昆虫に歓声を上げていました。小学4年生の男の子は、「やっぱ、カブトムシだよなあ」と目を輝かせていました。



■杉並区立郷土博物館(杉並区大宮 1-20-8)

開館時間 午前9時から午後5時まで

休館日 毎週月曜日、毎月第3木曜日(祝日・休日の場合は開館し、翌日休館)

7月17日(月)は開館し、7月18日(火)が休館となります。

観覧料 100円(中学生以下は無料)